

第5回 栃木県「文化と知」の創造拠点整備構想策定検討委員会

日時：令和6(2024)年6月17日(月) 14:00~16:00
場所：栃木県庁東館4階講堂

資料 1. 報告事項について	3 ページ
資料 2. 「文化と知」の創造拠点の施設整備について	6 ページ
資料 3. 「文化と知」の創造拠点の管理・運営について	17 ページ
資料 4. 「文化と知」の創造拠点の整備事業の進め方について	23 ページ
参考資料 1. 検討スケジュールについて	27 ページ
参考資料 2. 他都道府県の施設整備等について	29 ページ
参考資料 3. ゾーニングについて	30 ページ
別紙 1. 県民ワークショップにおける意見整理表	

報告事項について

第3回・第4回県民ワークショップの実施について

内容	第3回 一般向け	第4回 学生(高校生以上)向け
目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 実際の利用者・将来の利用者としての県民の声を聴取し、使い勝手の良い県民のための施設を目指す ● 整備構想の中間案が公表され、検討が進められていることを周知し、機運醸成を図る 	
実施日	令和6(2024)年4月27日(土)	
実施時間	10時～12時	14時～16時
会場	栃木県庁	
参加者数	14名	19名
参加対象者	県内在住又は在勤の方	県内に在住又は通学している学生(高校生以上)
概要	「文化と知」の創造拠点に欲しい機能・役割や施設、してみたい活動など、グループワークを通して考え、様々な意見を述べていただいた。	
聞き取り項目	<u>「文化と知」の創造拠点に期待すること</u> <ul style="list-style-type: none"> ● 「文化と知」の創造拠点に欲しい機能・役割や施設 ● 「文化と知」の創造拠点でしてみたい活動等 	

第5回・第6回県民ワークショップの実施について

内容	第5回 県北地区	第6回 県南地区
目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 実際の利用者・将来の利用者としての県民の声を聴取し、使い勝手の良い県民のための施設を目指す ● 整備構想の中間案が公表され、検討が進められていることを周知し、機運醸成を図る 	
実施日	令和6(2024)年5月18日(土)	令和6(2024)年5月25日(土)
実施時間	10時～11時30分	10時～11時30分
会場	那須塩原市図書館みるる	小山市立生涯学習センター
参加者数	10名	10名
参加対象者	県内在住又は通勤・通学している高校生以上の方	
概要	<p>「文化と知」の創造拠点に欲しい機能・役割や施設、してみたい活動など、グループワークを通して考え、様々な意見を述べていただいた。また、利用促進につながるような県内各地との連携・協働等についても意見を述べていただいた。</p>	
聞き取り項目	<p>「文化と知」の創造拠点に期待すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「文化と知」の創造拠点に欲しい機能・役割や施設 ● 「文化と知」の創造拠点でしてみたい活動等 	

「文化と知」の創造拠点の施設整備について

「文化と知」の創造拠点の施設整備について

第4回検討委員会での主な意見

分類	主な意見	
敷地に関するもの	<ul style="list-style-type: none">● 駐車場を地下に整備し、地上部分は公園のような憩いの場として使えると良い● 学校団体等の受入れに対応するため、大型バスの駐車場も必要● 周辺の交通への影響や、LRT停留所からの歩行環境等を考慮した動線計画の検討が必要● 3施設のつながり方や人とモノの動線等を整理し、業務効率化とサービスの向上の両立を目指すことが重要	
施設に関するもの	一体化	<ul style="list-style-type: none">● 一部を共用する形での合築が望ましい● 美術館、図書館、文書館それぞれの固有の機能が保てるよう、各館の独立性への配慮が必要● 共用スペースは誰でも入れ、そこで刺激を受けた人が、各館に入っていく構成が良い
	資材	<ul style="list-style-type: none">● 県産木材や大谷石等の県産品を使用し、栃木県の魅力を伝えられる建物としてほしい
	諸室	<ul style="list-style-type: none">● 3施設とも、将来を見据えた適切な収蔵環境・収蔵スペースを確保することが重要● 様々な人が気軽に利用し、交流できる創造の場として、自由度の高い空間を整備できると良い● 利用者が交流する学びの場やユニークベニユーなど、共用スペースの活用方法の検討が相乗効果を生む上で重要● キッズスペースや授乳室は誰もが利用しやすい場所に設置するなど、多様な利用形態への対応が必要

敷地について①

基本的な考え方

周辺環境や景観との調和に配慮するとともに、コンセプトを意識した敷地利用を行う。

区分	方向性
開く	<ul style="list-style-type: none">● 誰もが気軽に利用でき、県民・来県者の憩いの場となるスペースとする● あらゆる人が安全・快適に過ごせるユニバーサルデザインに配慮する● 多方向から拠点にアプローチできる開放性とセキュリティを両立する
つなぐ	<ul style="list-style-type: none">● 屋外でのイベント等を通し、多くの主体が交流できるよう、広い屋外スペースを確保する● 歩行者・自転車、一般車、搬出入車の各々について、安全かつ円滑な動線とする● LRT停留所からのアプローチなど、公共交通との連携を図る
育む	<ul style="list-style-type: none">● 屋外展示等により、県民が気軽に「文化と知」に触れられる機会を提供する● 屋外での様々な表現活動が行えるスペースを確保する● 栃木の豊かな自然等を感じられるランドスケープとする

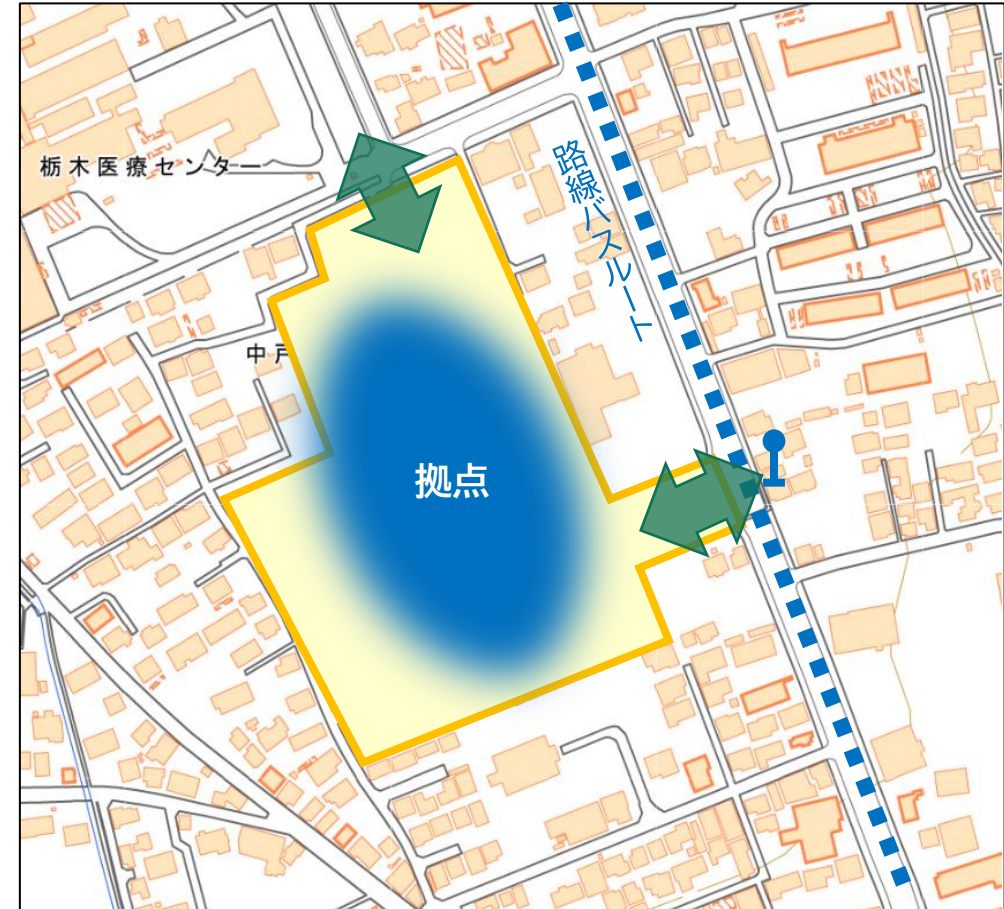
敷地について②

敷地利用の考え方

項目	検討のポイント
敷地の使い方	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用者の憩いの場となる広い緑地空間の創出 ● 屋外展示やイベント等に対応できるスペースの確保
景観形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 周辺住宅地に配慮しながら、視認性も確保
外構空間・建物の配置	<ul style="list-style-type: none"> ● 県民が気軽に利用でき、憩いの場となる外構空間の確保 ● 利便性に配慮した配置

アクセス（敷地の動線）等の考え方

項目	検討のポイント
車両のアクセス	<ul style="list-style-type: none"> ● 道路の渋滞対策等、周辺交通環境への配慮 ● 大型トラックでの搬入を考慮した敷地への進入位置を検討
歩行者等のアクセス	<ul style="list-style-type: none"> ● LRTや路線バス等の交通事業者と連携した利便性の向上 ● 多方向からアプローチできるアクセスを検討
敷地内の動線	<ul style="list-style-type: none"> ● 安全性やユニバーサルデザインに配慮した動線計画の検討 ● 美術品、書籍等の搬出入の利便性、セキュリティに配慮
駐車場等	<ul style="list-style-type: none"> ● 十分な駐車・駐輪台数、大型バス駐車スペースの確保 ● EV充電設備の整備を検討



出典：国土地理院地図

「文化と知」の創造拠点の施設整備について

施設について

基本的な考え方

県産の材料や伝統工芸品等の活用により「とちぎらしさ」が感じられる施設とするとともに、コンセプトを意識した施設整備を行う。

区分	方向性
開く	<ul style="list-style-type: none">● 誰もが気軽に利用でき、安心・快適に過ごせる施設とする● 静穏ゾーン、賑わいを許容するゾーン等を区分することにより、様々な利用形態に対応できる施設とする
つなぐ	<ul style="list-style-type: none">● 多様な主体が交流できる施設とする● ライフサイクルコストや環境負荷の低減を図りながら、長く利用できる施設とする
育む	<ul style="list-style-type: none">● 県民、若手作家などの創造活動を支援する施設とする● 時代の変化や様々な表現活動等に対応できるフレキシブルな施設とする

基本的な性能

防災・防犯に関わるもの	環境配慮に関わるもの	共生社会に関わるもの
<ul style="list-style-type: none">● 耐震性能、耐火性能等、災害に対する安全性能を備える● 雨水流出の抑制を図る● 公開承認施設としての基準を満たすなど、文化財が展示できる環境を備える● 美術品補償制度の適用基準を満たす	<ul style="list-style-type: none">● ZEB(※)化により、カーボンニュートラルに貢献する● 木造・木質化等、県産木材を活用する● 再生材を活用する● 長寿命化により、ライフサイクルコストの低減を図る	<ul style="list-style-type: none">● ユニバーサルデザインに配慮した、誰もが快適に利用できる環境を整える

※ZEB:ネット・ゼロ・エネルギー・ビル。年間エネルギー収支をゼロにすることを目指した建物

「文化と知」の創造拠点の施設整備について

施設の想定面積について〈美術館〉

※★は各館での共用を想定

機能	主な諸室	想定面積	検討のポイント
収集・保存	収蔵庫、搬出入スペース、プリザベーションルーム、保管庫、くん蒸室★、撮影室★ など	2,500～ 3,500㎡	<ul style="list-style-type: none"> ● 適切な収蔵環境や将来の増加に対応する収蔵スペースの確保 ● 他の動線との交錯を回避した搬出入動線
展示・公開	常設展示室、企画展示室、保管庫、ギャラリー★、美術図書室(アーツライブラリー)★ など	3,000～ 4,000㎡	<ul style="list-style-type: none"> ● 展示内容に応じてフレキシブルに対応できる展示室の設置 ● 長時間の滞在に対応できる鑑賞環境の整備 ● 展示準備等を効率的に行える諸室の設置
調査・研究	研究室、書庫 など	300～ 400㎡	<ul style="list-style-type: none"> ● 美術作品・作家等の調査・研究のための適切な環境の確保
教育・普及	ワークショップ室、公開制作スタジオ、講堂★、学習室★、多目的室★ など	400～ 600㎡	<ul style="list-style-type: none"> ● 工作ワークショップ等のイベント実施環境の充実 ● 作家の制作現場を間近で体感できる公開制作スタジオの設置
アメニティ	ロビー、エントランスホール★、ショップ★、レストラン・カフェ★、キッズルーム★ など	1,000～ 2,000㎡	
その他	執務室★、会議室★、設備機械室★ など	5,000～ 7,000㎡	
合計		約 15,000㎡	

「文化と知」の創造拠点の施設整備について

施設の想定面積について<図書館>

※★は各館での共用を想定

機能	主な諸室	想定面積	検討のポイント
収集・保存	閉架書庫、資料整理室、保存処理室、撮影室★ など	5,000～ 7,000㎡	● 適切な収蔵環境や将来の増加に対応する収蔵スペースの確保
提供 (展示・公開) 調査・相談	【開架エリア】 公開書架、とちぎライブラリー、バリアフリーコーナー、 子ども読書支援コーナー、ギャラリー★、 美術図書室(アートライブラリー)★ など 【閲覧エリア】 閲覧席、サイレントルーム、対面朗読室 など 【業務エリア】 レファレンスカウンター など	4,500～ 6,500㎡	● とちぎゆかりの作家や文学作品、各種資料等「とちぎならではの」を集めたコーナーの設置 ● 読書バリアフリー対応の資料や機器の設置 ● 親も子も使いやすい子ども読書支援コーナーの設置 ● 適切なゾーニングと閲覧席数の確保により、居心地の良い閲覧スペースの確保 ● 利用者が快適に利用・相談できるカウンター等の確保
連携・支援	搬送準備室、搬出入スペース★ など	100～ 200㎡	● 市町立図書館や学校図書館との連携や支援のための適切な環境の確保
教育・普及	講堂★、学習室★、多目的室★ など	800～ 1,000㎡	
アメニティ	エントランスホール★、ロビー★、ショップ★、 レストラン・カフェ★、キッズルーム★ など	500～ 700㎡	
その他	執務室★、会議室★、設備機械室★ など	4,000～ 6,000㎡	
合計		約 18,000㎡	

「文化と知」の創造拠点の施設整備について

施設の想定面積について<文書館>

※★は各館での共用を想定

機能	主な諸室	想定面積	検討のポイント
収集・保存	収蔵庫、参考資料室、作業室、くん蒸室★、撮影室★、搬出入スペース★ など	1,500～ 2,500㎡	<ul style="list-style-type: none"> ● 適切な収蔵環境や将来の増加に対応する収蔵スペースの確保 ● 様々な史料の修復、被災史料のレスキュー等に対応できる環境の確保
展示・公開	展示室、閲覧室、展示準備室、ギャラリー★ など	200～ 300㎡	<ul style="list-style-type: none"> ● 貴重史料等を展示できる環境の整備 ● 大型史料等を閲覧できるスペースの確保
調査・研究	研究室、調査整理室 など	100～ 200㎡	<ul style="list-style-type: none"> ● 古文書・公文書等の調査・研究等のための適切な環境の確保
教育・普及	講堂★、学習室★、多目的室★など	100～ 200㎡	
アメニティ	エントランスホール★、ロビー★、ショップ★、レストラン・カフェ★、キッズルーム★ など	100～ 200㎡	
その他	執務室★、会議室★、設備機械室★ など	500～ 700㎡	
合計		約 3,000㎡	

「文化と知」の創造拠点の施設整備について

施設の想定面積について〈共用部分〉

機能	主な諸室	想定面積	検討のポイント
収集・保存	くん蒸室、撮影室、搬出入スペース など	200～ 300㎡	<ul style="list-style-type: none"> ● 一度に多くの美術品・史料等をくん蒸できるスペースの確保 ● デジタルアーカイブ化等に対応した撮影室の設置 ● 効率的に搬出入業務を行うためのスペースや動線の確保
展示・公開	ギャラリー、美術図書室(アートライブラリー) など	200～ 300㎡	<ul style="list-style-type: none"> ● 県民・若手作家等が作品展示を行えるギャラリーの設置 ● 美術に親しみやすく、調査研究等にも資する図書室の設置
教育・普及	講堂、学習室、多目的室 など	500～ 1,500㎡	<ul style="list-style-type: none"> ● 講演会やコンサート等が行える講堂の設置 ● グループ学習や個別学習等、目的に応じたスペースの確保 ● 講座、研修、会議等、様々な用途に使用できる多目的室の設置
アメニティ	エントランスホール、ロビー、ショップ、レストラン・カフェ、キッズルーム など	1,000～ 2,000㎡	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用者の交流が図られるエントランスホールの設置 ● レストラン、カフェ、ショップ等のアメニティのみの利用を想定した動線 ● 子ども、子育て世帯も利用しやすいキッズルームの設置
その他	執務室、会議室、設備機械室 など	4,000～ 6,000㎡	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員間の連携が図られる環境の確保 ● 設備の共用による効率化
合計		約 8,000㎡	※各館面積の内数

施設の想定面積について <まとめ>

施設全体の想定延べ床面積

各館のコア機能を充実させるとともに、可能な範囲で施設を共用することにより、合理的な面積で整備を行う。

■ 各施設の面積配分の目安

美術館コア部分 約 11,500㎡		図書館コア部分 約 14,000㎡		文書館コア部分 約 2,500㎡	
収集・保存	2,500~3,500㎡	収集・保存	5,000~7,000㎡	収集・保存	1,500~2,500㎡
展示・公開	3,000~4,000㎡	提供、調査・相談 (展示・公開)	4,500~6,500㎡	展示・公開	200~300㎡
調査・研究	300~400㎡	連携・支援	100~200㎡	調査・研究	100~200㎡
教育・普及	200~300㎡	その他	2,000~3,000㎡	その他	100~200㎡
アメニティ	500~700㎡				
その他	3,000~4,000㎡				
共用部分 約 8,000㎡					
収集・保存	200~300㎡	教育・普及	500~1,500㎡	その他	4,000~6,000㎡
展示・公開	200~300㎡	アメニティ	1,000~2,000㎡		



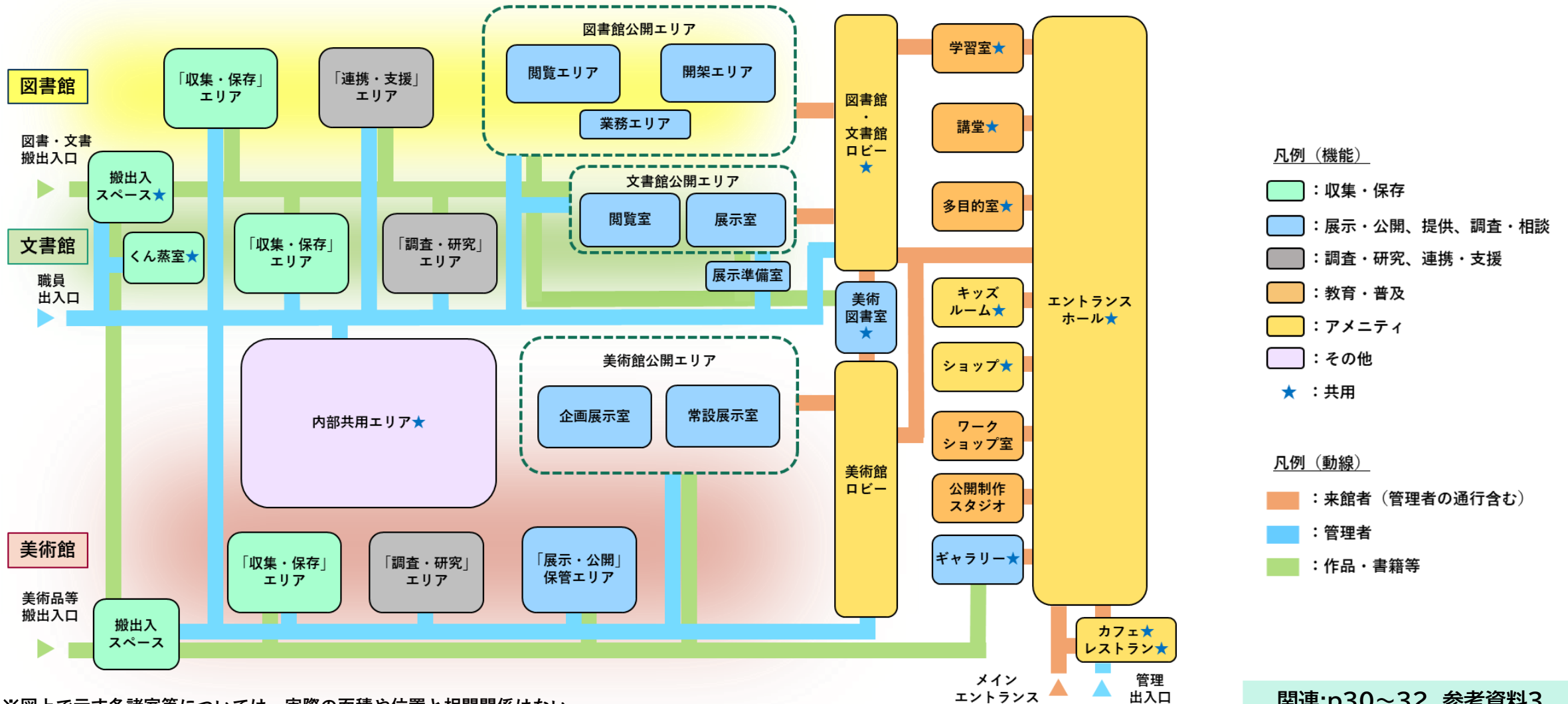
美術館相当部分 約 15,000㎡		図書館相当部分 約 18,000㎡		文書館相当部分 約 3,000㎡	
美術館コア部分	約 11,500㎡	図書館コア部分	約 14,000㎡	文書館コア部分	約 2,500㎡
共用部分	約 3,500㎡	共用部分	約 4,000㎡	共用部分	約 500㎡

} 施設全体で
約 36,000㎡

「文化と知」の創造拠点の施設整備について

動線計画について

- 来館者にとっても職員にとっても、3館の往来がしやすい動線計画
- 来館者動線、職員動線、美術品・文化財動線、図書・文書動線が分離できる動線計画



「文化と知」の創造拠点の管理・運営について

第4回検討委員会での主な意見

分類	主な意見
管理運営に関するもの	<ul style="list-style-type: none"> ● 総務や企画運営を一体化することで総合的な見地での運営が可能となる ● 各施設を総合的にコーディネートできる人材が必要 ● 各施設の機能が発揮できる環境を確保した上で、機能の共有化・効率化を検討する必要がある ● 各施設の専門職員や企画運営部門の職員が必然的に交流できる仕組みが必要 ● 多様なニーズに応える魅力的な施設運営には、職員数の確保も重要 ● 県民がボランティア等で拠点の企画や運営に参加できる仕組みが必要
利用促進に関するもの	<ul style="list-style-type: none"> ● 実来館に加え、デジタルアーカイブの閲覧等、遠隔での利用者も想定して利用促進策を検討すべき ● 集いの場の創出やパーティー等の目的外利用など、若年層や子育て世代の利用につながるテーマ性があると良い ● 県立博物館をはじめ地域の文化施設との連携・交流など、地域全体で盛り上がるような仕組みが必要 ● 広報やアメニティ機能の運営、イベント企画等に民間活力を活用できると良い ● 教育機関と連携し、学校教育の中で拠点に来館し、栃木県の文化等を学べるプログラムづくりが必要 ● SNS等のデジタルツールを積極的に活用したきめ細かい広報活動が重要

管理・運営について

基本的な考え方

各施設に係る法令や運営基準等を遵守しながら、コンセプトを意識した管理・運営を行う。

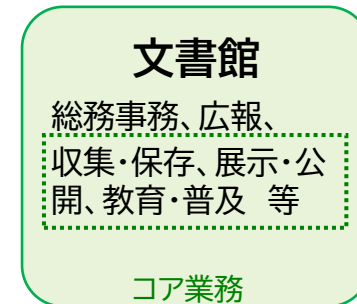
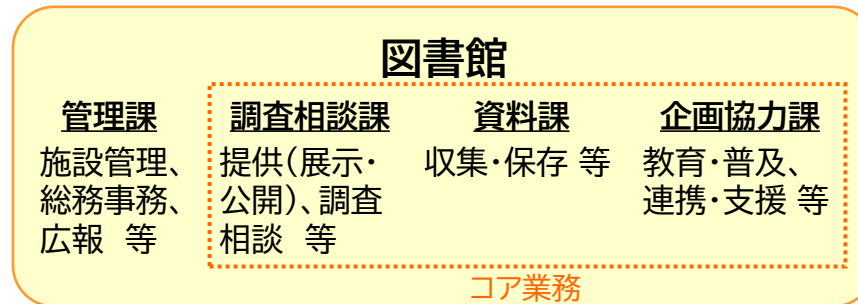
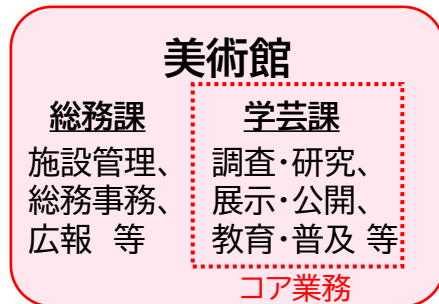
区分	方向性
開く	<ul style="list-style-type: none">● 県立施設として、「文化と知」の集積を誰でも活用することができるよう、管理・運営における公共性や透明性を確保する● デジタルを活用し、利便性を向上させることで、誰でも利用できる・利用したくなる施設づくりを進める● ボランティア等の活動を通じ、県民が施設の運営に参加できる仕組みを作る
つなぐ	<ul style="list-style-type: none">● 県内の社会教育施設(※)との連携・協力関係を強化することで、県内の「文化と知」を結ぶネットワークの中心としての役割を担う● 県内の教育機関や各種産業をはじめとした多様な主体との連携を推進することで、県民のとちぎに対する理解を深め、ふるさとへの愛着を醸成するきっかけづくりに寄与する
育む	<ul style="list-style-type: none">● 県民の自主性と創造性を刺激する魅力的な取組を実施することで、多彩な表現活動を支援するとともに、発表の機会を提供する● 「文化と知」の創造拠点として、「文化と知」に係る活動が常に行われる環境を整え、将来にわたり活躍できる人材の育成に寄与する

※図書館、博物館、公民館など、社会教育活動において利用される施設のこと。

管理・運営体制のイメージについて

現状の管理・運営体制

- 各施設のコア業務に加え、広報等を各施設が個別に実施

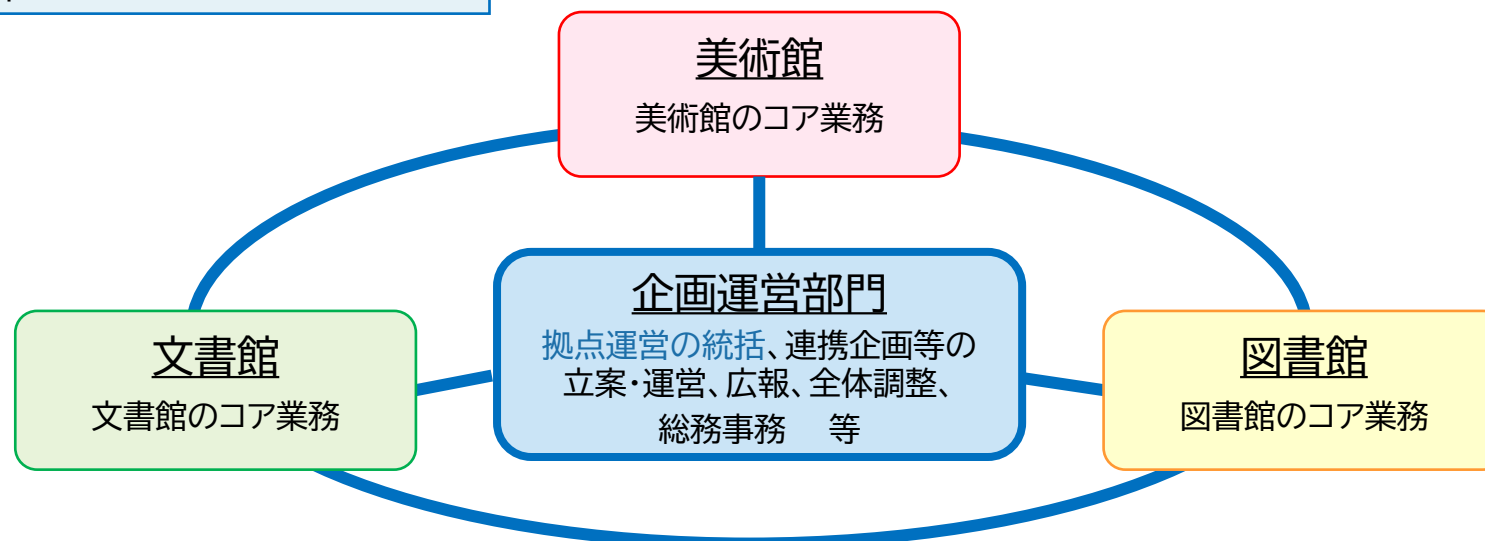


<一体的な整備に当たっての課題>

- 管理・運営の効率化
- 3施設が連携した新たな機能の実現
- デジタル化の一体的な推進
- 一元的な情報発信

拠点の管理・運営体制イメージ

- 3施設の機能強化や新たな機能の実現等を見据えた、適正な管理・運営体制を確保
- 各施設のコア業務を行う部門のほか、全体の企画運営を行う部門を設置し、**拠点運営の統括・連携企画等の立案・運営**や、広報、全体の調整、総務事務等は企画運営部門で実施



管理・運営に係る主な職種について

部門	職種	職務内容
企画運営部門	事務職員	<ul style="list-style-type: none"> ● 拠点の管理・運営全般、各館との連携 ● 3施設の連携事業の企画・運営、拠点全体の広報・マーケティング ● デジタルの活用やDX等の推進
美術館	学芸員	<ul style="list-style-type: none"> ● 美術作品等の収集・保存 ● コレクション展、企画展等の企画・運営 ● 美術作品や作家等の調査・研究 ● 教育普及プログラムの企画・運営
図書館	司書	<ul style="list-style-type: none"> ● 資料の収集・保存 ● 資料の閲覧・貸出・展示、レファレンス業務 ● 市町立図書館や関係機関との連携
	学校連携担当職員	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校図書館との連携
文書館	専門職員	<ul style="list-style-type: none"> ● 古文書・公文書等の収集・保存、調査・研究、展示公開、教育普及 ● 収蔵史料等のデジタル化 ● 古文書・公文書等の目録作成、修復・補修(被災史料レスキュー業務を含む)

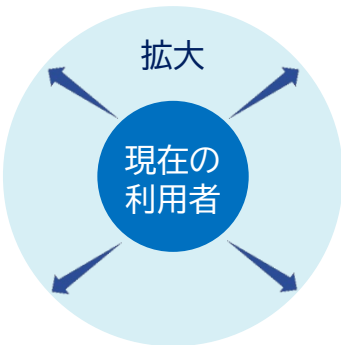
※各館にも事務職員等を配置することを検討

利用促進について

基本的な考え方

- 県立施設として、全ての県民が利用しやすい仕組みを整える
- 利用者層の裾野を広げることで、利用者数の増加を目指す
- 県外からの観光客やインバウンドの利用を促進する
- 様々な媒体を通じ、積極的に情報発信を行う

利用者層拡大のイメージ



現状	利用者層拡大のイメージ
遠方の県民は利用しにくい	デジタルを活用した遠隔利用を促す ▶ デジタルアーカイブ、デジタルミュージアム等の活用 ▶ 電子書籍の活用 等 広域での相互利用を促す ▶ 市町立施設や各種産業等と連携・協働した周遊促進策の実施 等
中高年層が中心	若年層の利用を促す ▶ 教育機関との連携、学校団体の受入れ ▶ 子ども・子育て世帯が利用しやすい環境の整備 ▶ 若者が興味・関心を抱く企画等の実施 等
県外からの利用が少ない	インバウンドを含む観光客の利用を促す ▶ とちぎならではの魅力的な企画等の実施 ▶ 展示解説等での多言語対応 等

拠点の活動等について積極的に情報発信し、更なる利用促進を図る

「文化と知」の創造拠点の整備事業の進め方について

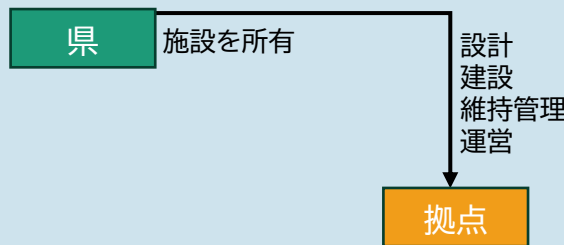
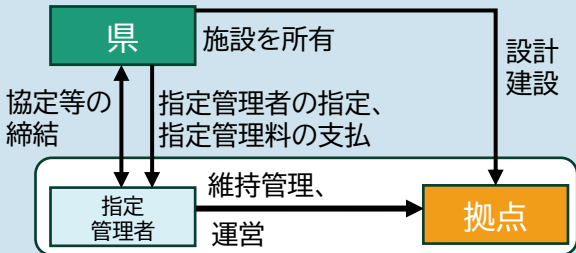
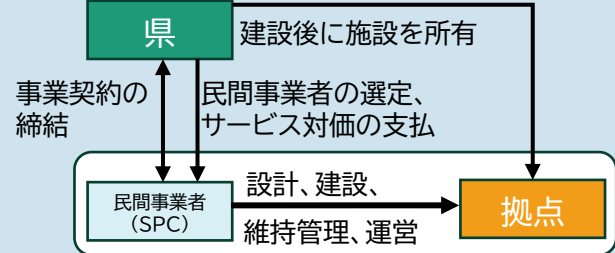
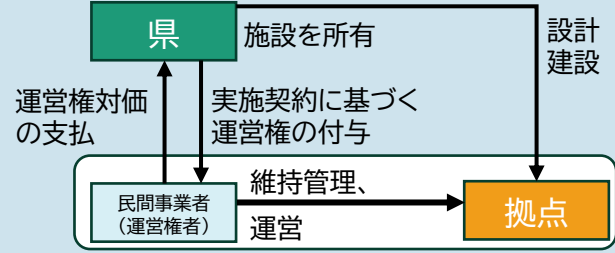
「文化と知」の創造拠点の整備事業の進め方について

事業手法の例①

手法	根拠	設計	建設	維持管理	運営	料金収受	資金調達	導入事例
従来型(直営)	—	個別発注	個別発注	個別発注	県直営・業務委託等	県	県	・福岡県立美術館 ・石川県立図書館 など
指定管理	地方自治法	個別発注	個別発注	包括発注		県 もしくは 民間	県	・長崎県美術館 ・山梨県立図書館 など
PFI(BTO型)	PFI法	包括発注 ※運営業務の官民分担は個別施設の特性にあわせて検討				県 もしくは 民間	民間	・神奈川県立近代美術館 ・三重県桑名市立中央図書館 など
コンセッション	PFI法	個別発注	個別発注	包括発注 ※運営業務の官民分担は個別施設の特性にあわせて検討			県	・大阪中之島美術館 など

「文化と知」の創造拠点の整備事業の進め方について

事業手法の例②

手法	特徴
従来型(直営)	<ul style="list-style-type: none"> ● 県が個別で設計、建設を発注し、維持管理を実施 ● 運営は県直営、一部業務委託等 
指定管理	<ul style="list-style-type: none"> ● 県が個別で設計、建設を発注 ● 指定管理者制度を用いて維持管理、運営を民間に包括発注 ● 料金収受は指定管理者が担うことも可 
PFI(BTO型)	<ul style="list-style-type: none"> ● 設計、建設、維持管理、運営まで民間資金を活用して包括発注 ● BTO型の場合、施設整備後に県へ所有権を移転 
コンセッション	<ul style="list-style-type: none"> ● 県が個別で設計、建設を発注 ● 利用料金の徴収を行う施設の運営権を民間事業者が有し、維持管理、運営、料金収受を実施 

参 考 资 料

事業全体の流れ



整備構想策定の流れ

年	令和5年度									令和6年度									
月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
委員会	①		②			③		④			⑤			⑥					
検討内容	現状と課題～機能・役割の検討									中間案	整備計画等の検討						構想案		構想策定
県民の意見聴取	ワークショップ ① ②								ワークショップ ③ ④ ⑤ ⑥				アンケート調査		パブリックコメント				

検討委員会スケジュール

回数	日程	検討内容等(予定)
第1回(実施済)	令和5(2023)年8月1日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ● 現状と課題の整理 ● 県の考え方について
第2回(実施済)	令和5(2023)年10月31日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ● 一体的な整備について ● 整備地について ● 基本理念・コンセプトにつながる視点について
第3回(実施済)	令和6(2024)年1月10日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ● 機能と役割 ● 基本理念・コンセプト
第4回(実施済)	令和6(2024)年3月18日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ● 機能と役割 ● 基本理念・コンセプト ● 施設整備計画、管理・運営計画 <p style="text-align: right;">} 中間案のとりまとめ</p>
第5回(今回)	令和6(2024)年6月17日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設整備計画、管理・運営計画、整備事業の進め方
第6回	令和6(2024)年9月10日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ● 整備構想案のとりまとめ

他都道府県の施設整備等について

※第2回検討委員会資料 一部抜粋

他都道府県の近年の施設整備動向

施設	都道府県【竣工年】	延床面積	考察
美術館	栃木県(既存)【1972年】	7,907m ²	延床面積は13,000m ² ~17,000m ² 程度 (平均で15,000m ² 程度)
	大分県【2015年】	16,817m ²	
	富山県【2017年】	14,990m ²	
	長野県【2021年】	13,256m ²	
図書館	栃木県(既存)【1971年】	6,458m ²	延床面積は13,000m ² ~23,000m ² 程度 (平均で18,000m ² 程度)
	高知県【2018年】	17,780m ²	
	長崎県【2019年】	13,325m ²	
	石川県【2022年】	22,721m ²	
文書館	栃木県(既存)【1986年】	1,952m ²	延床面積は3,000m ² 程度
	北海道【2019年】	3,062m ²	
	滋賀県【2020年】	3,294m ²	
	高知県【2020年】	3,170m ²	

出典:各館要覧、年報、ホームページ

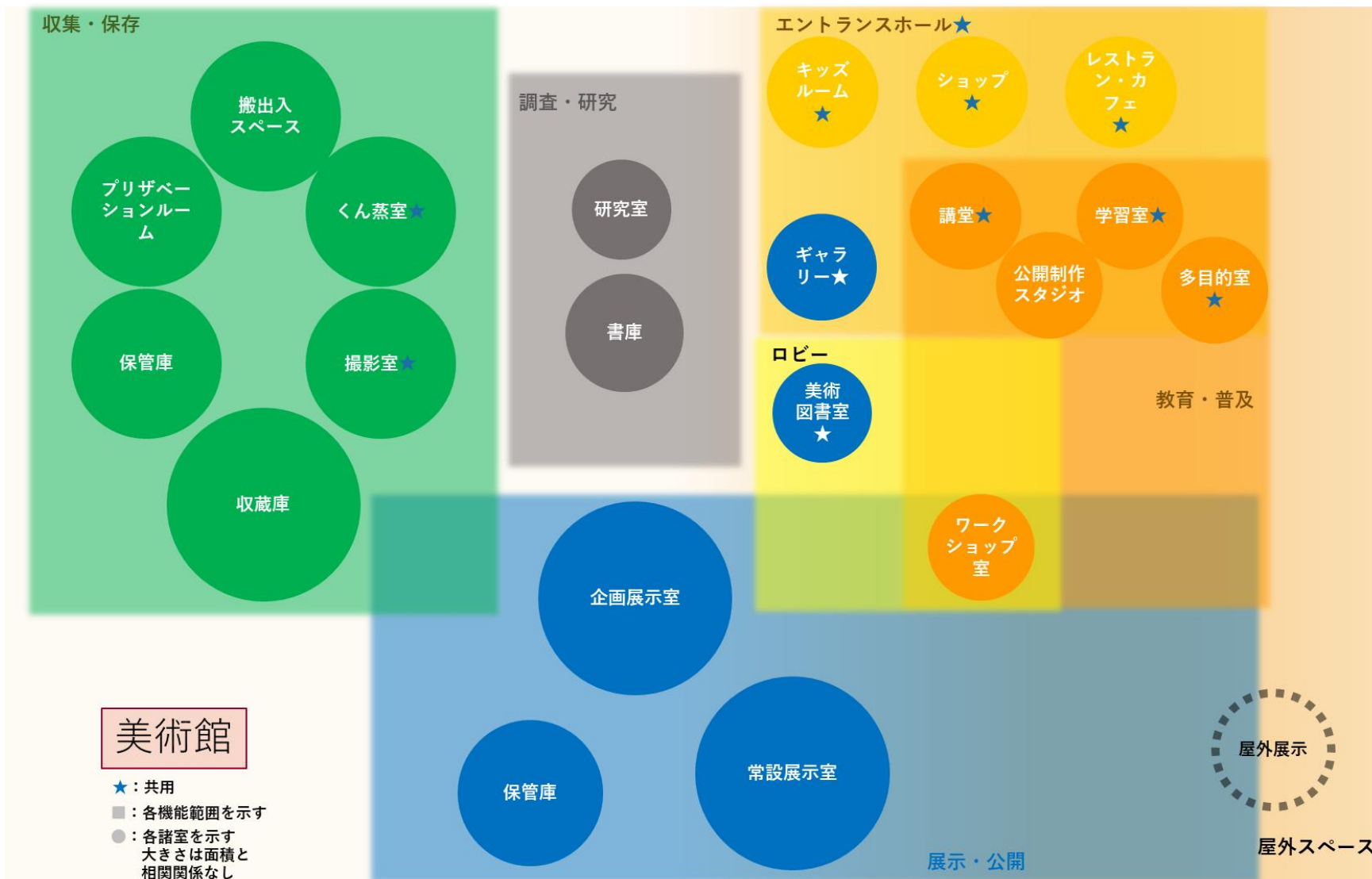
隣県の県立施設の駐車場規模

県	美術館	図書館	合計	考察
栃木県(既存)	80台	0台	80台	駐車台数は150台~450台程度 (平均で300台程度) 300台×30m ² /台 =9,000m ² 程度
群馬県	170台	140台	310台	
茨城県	約400台 <small>※航空写真でカウント</small>	66台	約466台	
福島県	150台		150台	

出典:各館要覧、年報、ホームページ

ゾーニングについて <美術館>

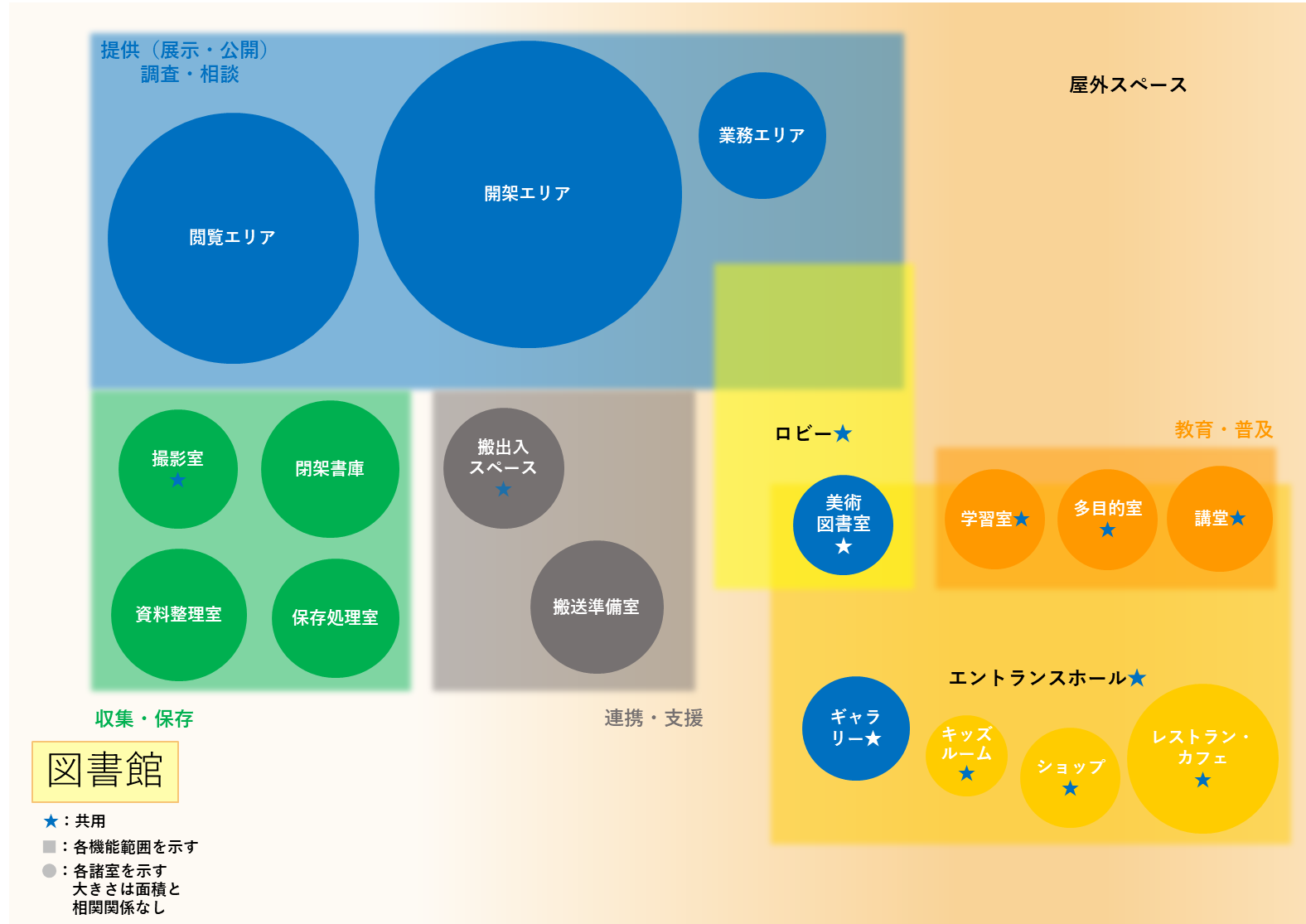
- 各館のコア機能が独立した構成とし、それぞれの存在が、屋外から視認しやすいゾーニングとする
- 来館者にとって「入りやすく」「徐々に専門性に没頭していける」段階的なゾーニングとする



※各機能配置及び各諸室配置の位置関係を示すもの

ゾーニングについて<図書館>

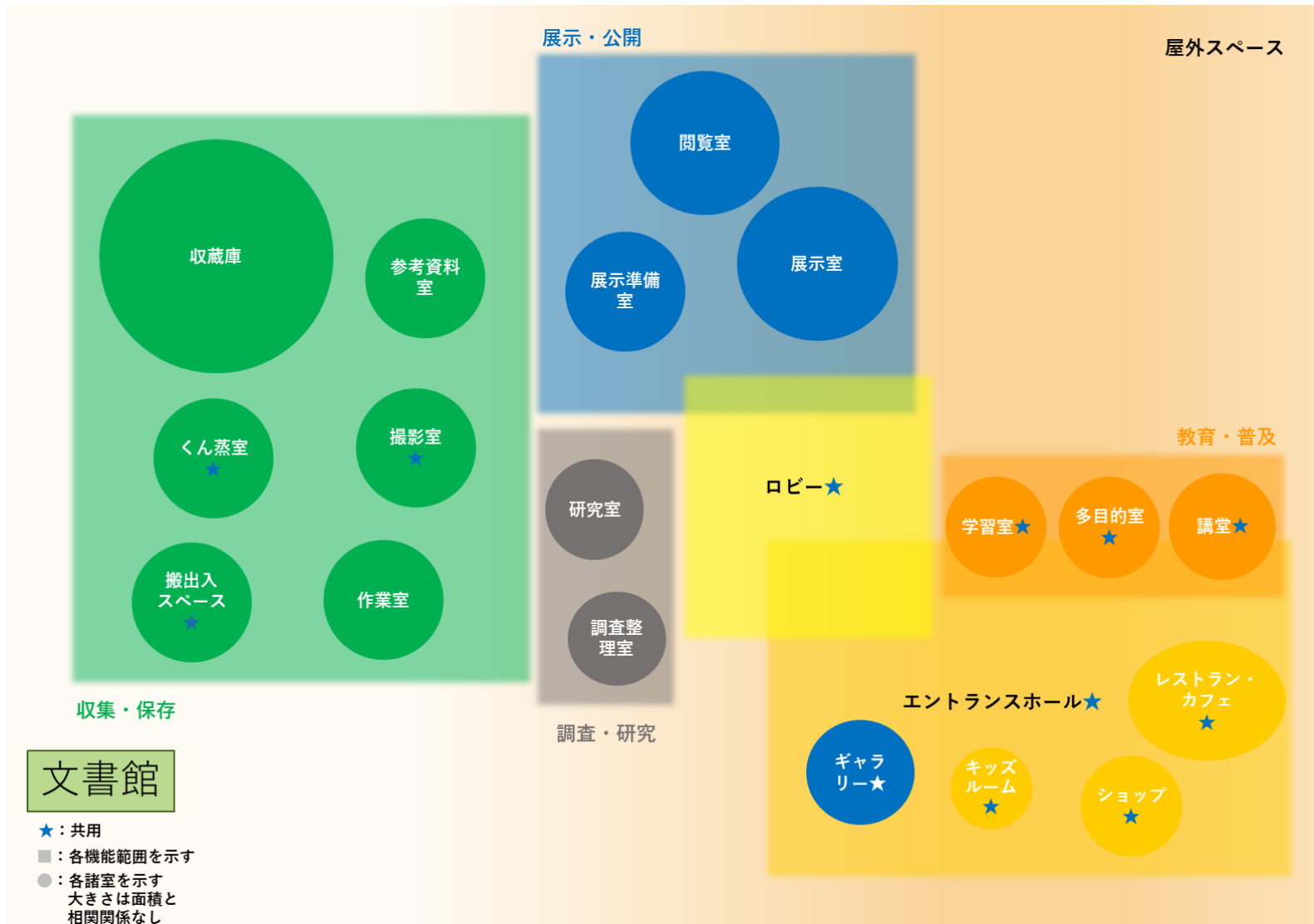
- 各館のコア機能が独立した構成とし、それぞれの存在が、屋外から視認しやすいゾーニングとする
- 来館者にとって「入りやすく」「徐々に専門性に没頭していける」段階的なゾーニングとする



※各機能配置及び各諸室配置の位置関係を示すもの

ゾーニングについて<文書館>

- 各館のコア機能が独立した構成とし、それぞれの存在が、屋外から視認しやすいゾーニングとする
- 来館者にとって「入りやすく」「徐々に専門性に没頭していける」段階的なゾーニングとする



※各機能配置及び各諸室配置の位置関係を示すもの

	拠点に欲しい機能・役割		拠点に欲しい施設		拠点でしてみたい活動	
	分類	意見	分類	意見	分類	意見
美術館	多様な 展示・企画	デジタル作品の展示	県民展示 スペース	自分が制作した作品を気軽に飾れるスペース	個人作品の 制作・展示	作品を展示したい
		県内若手アーティストの展示		県民が利用できるギャラリー		製作物の販売
		触れる美術作品の展示	イベント専用 スペース	コンサートができる騒音対策のある部屋		日常創作の機会
		子どもの展覧会		観賞用ホール		ギャラリーの利用
		特別支援学校の展覧会		小劇場	体験型イベント への参加	美術体験
		障がい者のマイノリティ作品展示		ワークショップができるスペース		ものづくり体験
		完成手前の作品の展示	公開制作ができるスペース	アクセサリー作り		
		県民が制作した作品の展示	小学生向けの展示スペース	石を彫る体験		
		ユーモアのある作品展示	多様な人向けの スペース	子どもが体験できるスペース	模写	
		本物に出会える		話せるスペース	3Dプリンターでのレプリカ製作	
		県内芸術大学との協働企画		展示室内のゆっくり休憩できるスペース	専門家による イベントへの参加	専門家によるワークショップ
		充実した鑑賞 サービス	イヤホンガイド	ゆっくりできる場所		芸術家を招いての座談会
	QRコード読取による美術作品ガイド		その他	印象的な大きな絵のある映えスポット	技法が学べるワークショップ	
	美術作品関連図書の設定			県民同士での交流	オススメ作品を共有する	
	学芸員の解説				その他	美術館での昼寝
	360°鑑賞可能	子ども向けの 機能				子が見やすい高さでの展示
	子ども向けの 機能		美術品のガチャガチャ			
			子どもと絵を書くイベント			
			子どもたちとの美術館見学			
			レプリカや壁への落書き			
			トリックアート			
			プロジェクションマッピング			
	その他		海外の美術館と繋がる			
			リーダーや専門家			
			美術品の貸し出し			
			展示品にちなんだ飲食販売			

	拠点に欲しい機能・役割		拠点に欲しい施設		拠点でしてみたい活動	
	分類	意見	分類	意見	分類	意見
図書館	多様な資料・図書の収集・保存	貴重な資料の取扱	多様な学習スペース	中高生の勉強スペース（個別ブース）	読み聞かせ・朗読への参加	昔話の語り
		課題や研究の参考となる本があるとよい		複数人の勉強スペース		大人向けの読み聞かせ
		問題集があると勉強できる		広い自習室		子どもたちへの読み聞かせ
		漫画を読みたい		仕切りのある自習室		読書会
		充実した資料		PCが使える学習室		絵本に関連するイベント
		幅広いジャンルの図書		多様な閲覧スペース		親子で本を読めるスペース
	学術・専門書の収集・提供	本棚の近くに椅子を設置（その場で閲覧）	いわむらかずおさんの作品鑑賞			
	アニメの原作を読みたい	人と話しながら利用できる読書スペース	座談会・講座への参加		作家さんを招いての座談会	
	司書による専門的サービス	司書によるレファレンス・窓口対応	本を読めるテラス席		館内コンペへの参加	多世代が学べる講座
		司書と学校間の交流（埼玉事例あり）	花を見ながら本を読めるスペース（屋内花壇）			ビブリオバトル
		司書と他施設の交流・信頼関係	飲食しながら読めるスペース			新刊No.1を決めるイベント
		司書の育成・継承	子どもが騒げるスペース	短編コンペ		
	便利な機能	電子図書	専用スペース	雑談し合える静かすぎないスペース	県民からの発信	調査研究の成果紹介
		施設全体のマップがスマホで分かる機能		くつろげる部屋		本をオススメし合える定期イベント
		調査相談・レファレンスサービスに役立つツール		視聴覚室（レコード・CDを聴ける部屋）		自作漫画の展示
		返却先が自由（図書返却ポスト）		絵本のエリア	ボランティア活動	読み聞かせの補助として学生が支援する
		自宅で検索できる		読み聞かせ専用スペース	その他	夜の泊り
		誰でも簡単に利用できる検索機		交流スペース		本をオススメし合えるスペース
	デジタル活用	交流できるスペース	本を読みながら寝る			
	多様な人向けの機能	夜遅くまで勉強したい	その他	本に囲まれた部屋	職人地図	
		コピー機の使用		アイスの自販機	藍染	
話せる				茶道		
飲食できる				レコード・CDを聴く		
バリアフリー						
気軽に使える						
ネットワーク形成	図書館の学校支援					
	文書館との近いアクセス					
	利用者が貸し借りできる体制					
	作者と読者のネットワーク					

	拠点に欲しい機能・役割		拠点に欲しい施設		拠点でしてみたい活動			
	分類	意見	分類	意見	分類	意見		
文書館	親しみのある史料の展示	有名な人物の史料	閲覧以外のスペース	昔の人の暮らしを体験するスポット	文書館を知る活動	文書館での宝探し		
		授業で習った資料を実際に見る機会		歴史好きが集まって話ができるスペース		古文書の読み解き		
		身近な史料の展示				文書館での書道教室		
		学校の授業のカリキュラムに合わせた作品展示				古文書書き体験		
		特定の時代・人物の企画展				子どもたちとの文書館探検		
	各館・学校との連携	図書館との近いアクセス					文書館を利用しての研究・追究	学校で習った事例を追究したい
		美術館連携（美術展と関連する古文書）					史料についての研究	
		県立博物館と連携したイベント	ワークショップ・講座への参加	歴史・文化の継承に関連するワークショップ				
		総合の授業（宇都宮学）	漫画を通しての歴史講座					
		出張鑑定	その他	寄贈文書・寄託文書の目録閲覧				
		歴史講座						
	貴重史料の公開展示	貴重な資料の公開						
		貴重な資料の説明会						
		たくさんの蔵書						
	専門職員の活用	専門職員の窓口対応						
		保存・修復のやり方紹介						
	デジタル活用	デジタルデータの閲覧						
	その他	利用しやすい機能						
		敷居の低い						

	拠点に欲しい機能・役割		拠点に欲しい施設		拠点でしてみたい活動	
	分類	意見	分類	意見	分類	意見
全体	アクセスのしやすさ	観光客が訪れやすい交通	商業施設	オシャレなカフェ	交流	同年代同士の交流
		電車での来館者向け案内		美味しいレストラン		地域の子供たちとの交流
		無料バス		コンビニ		地元学生交流イベント
		コンパクトシティ		地域の特産物の販売エリア		異なる年代の人と話したい
		施設前のバス停設置	栃木県の木を活用した建築	異なる年代で人気だった音楽の紹介		
	積極的な拠点の周知	新拠点名が駅名となるLRTの駅	暗闇を活用したエリア	人と人との繋がりを生むイベント		
		映画やドラマの撮影地に	洗練されたインテリア	共通の趣味の人と繋がるイベント		
		施設のお愛称	照明ソファ	海外との交流		
		バスラッピングによる周知	餃子の像	周辺施設とのコラボ		
	雇用先の提供	障がい者のための就労の場	カーペット	県民と若手職員の交流		
		スタッフのアルバイト募集	水槽	学校関連の活動	文化祭	
		ボランティアの受け入れ・育成	階段の途中に資料		中高生の文化部の発表	
	専門家の活用と育成	研究職（専門家）育成	ひみつきちのような場所		大学生向けの活動を増やしてほしい	
		各館の専門家の配置	動くモニュメント		曜日ごとに大学生が中高生に勉強を教える	
		機能を十分に発揮するための組織・スタッフ	展望台	栃木県の魅力発信のためのイベントへの参加	和紙体験	
	近隣施設の周知	近隣商業施設との共存	螺旋階段		焼き物のプロを招いた焼き物づくり	
		とちぎデジタルミュージアムのアピール	シンボリックな建物空間		ドライフラワーを使った作品づくり	
		県立博物館、市立美術館との紹介	建物全体を上から見れる場所（屋上など）		大谷石でのコースターづくり	
		地域交流	明るいポップなデザイン		組子、福部細工等の伝統工芸体験	
		県外の人に栃木県を知ってもらう	会議室		シアターでの祭り（宮祭、山あげ祭等）体験	
	多様な人向けの機能	食事に学割をつける	イベントステージ		牛乳のイベント	
		若者・子どもが気軽に利用できる機能	完全防音の部屋		地元産業に親しめる場	
		人が集まる憩いの場としての機能	たきざわコレクションを聴けるスペース		県の名産物の物販	
		集まって会話できる	バックヤードツアーに対応したつくり			
		一人で来ても楽しめる	イベントスペース			
		気軽に立ち寄れる	和室			
		バリアフリー	レンタルスペース			

	拠点に欲しい機能・役割		拠点に欲しい施設		拠点でしてみたい活動	
	分類	意見	分類	意見	分類	意見
全体	利用者ファーストの機能	広くて安全な駐車場	多様な人向けのスペース・づくり	クッキング等子どもが体験できるスペース	その他	学べる体験
		充実したネット環境		子どもの遊び場		宿泊・合宿型の体験
		タブレットレンタル		子ども用と大人用で高さの違う椅子		コンサート
		フリーWi-Fi		椅子やテーブルのあるフリースポット		ダンス
		広いトイレ		休憩できる部屋		フルスクリーンでの世界の図書館・美術館巡り
		耐震性のある施設		目的なく大人・子どもが過ごせる空間		ツアーイベント・見学
		安全性のあるデザイン		託児施設		趣味の講座
		講座の配信（アーカイブ化）		高齢者専用トイレ		マルシェ
	その他	栃木県らしさ	その他	静けさのある空間エリア		ゆるキャラとのふれあいイベント
		対象にあった保存の在り方		地方に愛される施設		拠点全体の謎解き
		本物の提供		各館ごとに異なる保存施設・環境		料理
		現状の活動を支える機能		毎日行ける公園		フリーマーケット
		県立ならではの機能・役割		避難場所		イルミネーション
		各館機能+aの機能		施設とは異なる場所に拠点を紹介する施設		黒板を使ってみんなで授業
		各館の独自性		夏に水遊びできる場所、小川		著名人などによるトークショー
		樹木の里親制度		施設の外側から作品を見れる施設		スタンプラリー
		生涯学習の大拠点としての機能		体験型スポット		バックヤードツアー
		充実した広報・情報発信		3Dプリンター		館内巡り10,000歩を目指す企画
		資料のデジタルアーカイブ化		冬にこたつ		演劇会
		出前講座の充実		足湯		電気メーター量の確認
		自然との調和				